

# ケアプランと現場をつなぐ 『ICF介護記録』徹底マスター研修会 介護記録をとことん活かす！介護リーダー必須の視点

毎日の介護業務の中で、介護記録はホントに活かされているでしょうか？「さ～て、今日は何があったかなあ」などと、まるで日記を書くように思いついた事だけを書いてはいないでしょうか？介護は単なる介助ではなく、専門職としての意図的な関わりとチームケアによる支援の連続性・継続性が重要です。そこには、普段何気なく書いている「介護記録」が重要なカギを握っているということをご存知でしょうか。この研修会では、単なる記録の法則や文法ではなく、プロとしての視点をふまえた記録の書き方をお教えいたします。 ●対象者：介護施設の職員向け、介護リーダー・相談員には特にお勧めです！

<p><b>1. 介護スタッフが徹底しておきたい記録のイロハ</b></p> <p>イ) 何のための記録を書いているのか ロ) 介護記録をどう活かすか ハ) 活かした介護記録を書くために必要なICF/ストレングス視点</p> <p><b>2. ケアプラン介護過程に沿ったICF介護記録の書き方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 特養入所、脳卒中片麻痺の利用者</li> <li>● 通所介護、歩行機能低下の利用者</li> <li>● グループホーム認知症の利用者</li> </ul> <p>各事例の検討とケアプラン&amp;記録の活かし方</p>	<p><b>3. ケアプランに連動した介護記録の整理・分析の方法と観察視点とは</b></p> <p>(1) 観察視点と生活機能分類 (2) 食事場面での記録 (3) 排泄場面での記録 (4) 入浴場面での記録 (5) レクリエーション活動の介護記録 (6) 認知症の方の介護記録&lt;&lt;認知症の表現&gt;&gt;</p> <p><b>4. ケアプラン周辺の間違えやすい介護記録</b></p> <p>(1) 他利用者との人間関係の介護記録 (2) 睡眠・夜間場面での記録(夜間巡視) (3) 認知症と行動障害の記録&lt;&lt;幻覚(行動障害)&gt;&gt; (4) 認知症と行動障害の記録&lt;&lt;徘徊(ひとり外出)&gt;&gt; (5) 介護に対する否定場面での記録</p>
---	---



【講師紹介】梅沢佳裕(うめざわよしひろ)先生 福祉と介護研究所 代表  
東北福祉大学 社会福祉学部卒業。介護専門学校で助教員を経て、特別養護老人ホーム・在宅介護支援センターの相談員を歴任し、デイサービス・グループホームの立上げを多数プロデュースする。現在は独立し『福祉と介護研究所』の代表。現在介護士・相談員スキルアップ研修など多数の講演活動、看護学校・介護専門学校講師を行なっている。社会福祉士、介護支援専門員。福祉住環境コーディネーター2級。著書『施設職員のための介護記録の書き方』(雲母書房)

【日時と会場】(東京)平成22年11月12日(金)午前10時～午後4時 王子・北とびあ  
(神奈川)平成22年11月26日(金)午前10時～午後4時 川崎・産業振興会館  
【受講料】7,350円 (1名様) ※お弁当をご用意いたします。【定員】各会場45名 HP

参加 申込書	法人名 事業所名			TEL	
	請求先 ご住所	〒 (法人宛・個人宛)		FAX	
11月12日 (東京・王子)	名	参加者 ご氏名	1 2 3 4	※ご氏名はお申込み後でも変更できます	
11月26日 (神奈川・川崎)	名	参加者 ご氏名	1 2 3 4	※ご氏名はお申込み後でも変更できます	

切り取らずにこのままFAXにてお送りください。 **お申し込みは ➡ FAX 048-990-8630**  
 ※お申し込み後、参加のご案内および請求書をお送りいたします。 <http://www.1rankup.com>  
**【企画・運営】アンビシャス株式会社 埼玉県越谷市蒲生西町1丁目3-68 サテライト6ビル3階 TEL:048-990-8639**